

広島大学における GTR 融合研究の日々

所属：創薬科学研究科

学年：博士後期課程 1 年 (D1)

氏名：岩田萌

出張先：広島大学大学院医系科学研究科ウイルス学

出張期間：2019 年 11 月から 2020 年 3 月

概要：ダブルメンターである入江崇先生の下で融合研究を行うため、広島大学へ国内短期留学した。研究に必要な手技を学び、自身の研究に関する知識を深めた。ウイルス学研究室主催のセミナーで自身の研究内容について、議論した。



ウイルス学研究室

【所感】

一人暮らしについて

今回融合研究を行うにあたって、初めて一人暮らしを行いました。もともと、自宅でも自炊や家事を行うため、自宅での生活と変わりなく日常生活を送ることができました。日々継続していくことは大変ですが、その分出来上がりに満足することができました。3食の食事づくりや掃除洗濯、日用品の買い出しなどで効率の良い方法を考え、最も安価かつ満足できる方法を考えました。また、毎日のルーティンをつくり達成することで、自身の生活にもメリハリをつけることができました。運動やごみ捨て等、一定の時間に行う作業を決めることで、自宅では家族任せに頼っていた起床も自分の意思で行えるようになりました。結果として、自身の生活に対する責任を負うことで、逆に生活態度に自信をもって取り組めるようになったと感じました。実験をメインに過ごしていた平日では、遊びと実験の時間をわけてメリハリのある生活を送ることができました。派遣期間の後半では、コロナウイルスによる自粛要請があり、いろいろな場所へ行く機会は減少したため、非常に残念でした。次回派遣されるときには、研究活動を進めながら毎週の計画をたてて、研究と私生活の双方で充実した生活を送れるようにしたいです。

研究室での生活

研究室の先生方からは、様々なアドバイスをいただきました。研究・実験に関して、分子生物学実験に役立つツールの使用方法や目的に適した条件検討、通常の実験

方法とは異なる研究室独自の工夫などを学ぶことができました。私の研究室と異なる手法を教えていただいたことで、行き詰っていた研究がすすみました。他にも、名古屋大学でも実践することができるウイルス学のスキルも学びました。今後、私の研究室でも情報を共有し、派遣期間中に培ったことを活かしていきたいです。

実生活に関しても、地元のおいしい定食屋や、旬の食材が安価に手に入るスーパーなどを紹介していただきました。見知らぬところで生活する不安がありましたが、研究室の先生方に恵まれたことで、安心して生活することができました。

一方で、自身の研究室と連絡や相談も不足なく行うことができました。研究室の定期的なミーティングにもテレビ会議で参加し、進捗報告とディスカッションを行いました。双方の先生に疑問点を直接尋ねることができるため、その場で問題を解決でき、理解が深まりました。Skype や Slack といったツールを使用して、プロジェクターを利用することで、しかし、ノートパソコンではマイクの性能に限界があり、音声は小さかったため、別のマイクを用意するなど、事前の準備を行ってから派遣先に出張する必要があったと反省しています。

まとめ

今回の国内派遣は、内面の成長と技術の向上が実感できた、非常に実りのあるものでした。私の所属する研究室とは異なる環境で生活することで、現在の研究室で恵まれている点を改めて実感しました。広島大学での融合研究によって、新たな実験試料を得て技術を学んだことで、自身の研究を大きくすすめることができました。また、一人暮らしを経験したことで、研究生活や自身の生活に対して、私自身が積極的にアプローチできることを発見し、名古屋に戻ってからも計画的に生活したいです。そのために、現状に満足せず、常に改善方法を考えることが必要であると感じました。

最後に、担当教員の小坂田文隆准教授、長期にわたる融合研究のサポートしていただいた GTR の方々、研究から私生活にわたってお世話になった入江先生以下研究室の方々に感謝申し上げます。



原爆ドーム



比治山公園